

【資料 1】



令和7年11月 足立区長定例記者会見

– 第4回 足立区議会定例会前 –

2025 11 20

1

第7号補正予算案①

災害緊急トイレの点検・組立訓練を毎年度実施

民間協力団体と連携した災害対策

- 足立管工事業協同組合
- 東京都管工事工業協同組合足立支部
- 足立管工設備協力会

災害緊急トイレを確実に使用できる体制の確保

これまでの経緯

H24
～27

東日本大震災の“復興税”を活用

区立公園52か所に以下3点の“防災対策設備”を設置

- ①マンホールトイレ
(簡易便座及びトイレテント含む)



- ②防災井戸
(手押しポンプ)



- ③ソーラーLED照明灯



- 毎年、区が点検(協力団体の点検内容には含まない)

H27

「民間協力団体※」と協定を締結
→ 区の要請により災害緊急トイレを開設

※給排水などの配管工事を行う専門業者3団体
(足立管工事業協同組合／東京都管工事工業協同組合足立支部／足立管工設備協力会)

【開設要件】「震度5弱以上の地震発生時」または「避難所開設時」

R6

能登半島地震でトイレの重要性を再認識

水道や下水道管が破損し多くのトイレが使えない

平時から、民間協力団体が
点検・組立訓練をする協定変更が必要

協定変更時期
令和7年12月
(補正予算成立後)

まずは

災害緊急トイレを使用できるか、区が区立公園52か所のうち19か所で事前点検を実施(R6)

R8.
1～3

民間協力団体が19か所で点検・組立訓練を実施

経費

- 1 人件費(1か所あたり4人分を想定) 1,225千円

- 2 公園までの移動にかかるガソリン代

実施内容

- 1か所あたり4時間(移動時間を含む)

- 1 点検…防災井戸の給水点検、テント等備品の点検

- 2 組立訓練…マンホールトイレ用テント組立、簡易便座の設置

実施方法

- 民間協力団体(左記の3団体)が実施

- 1 区内を5つの地域に分ける(詳細は次ページ参照)

- 2 団体に加盟する約80業者が実施後、報告書を提出

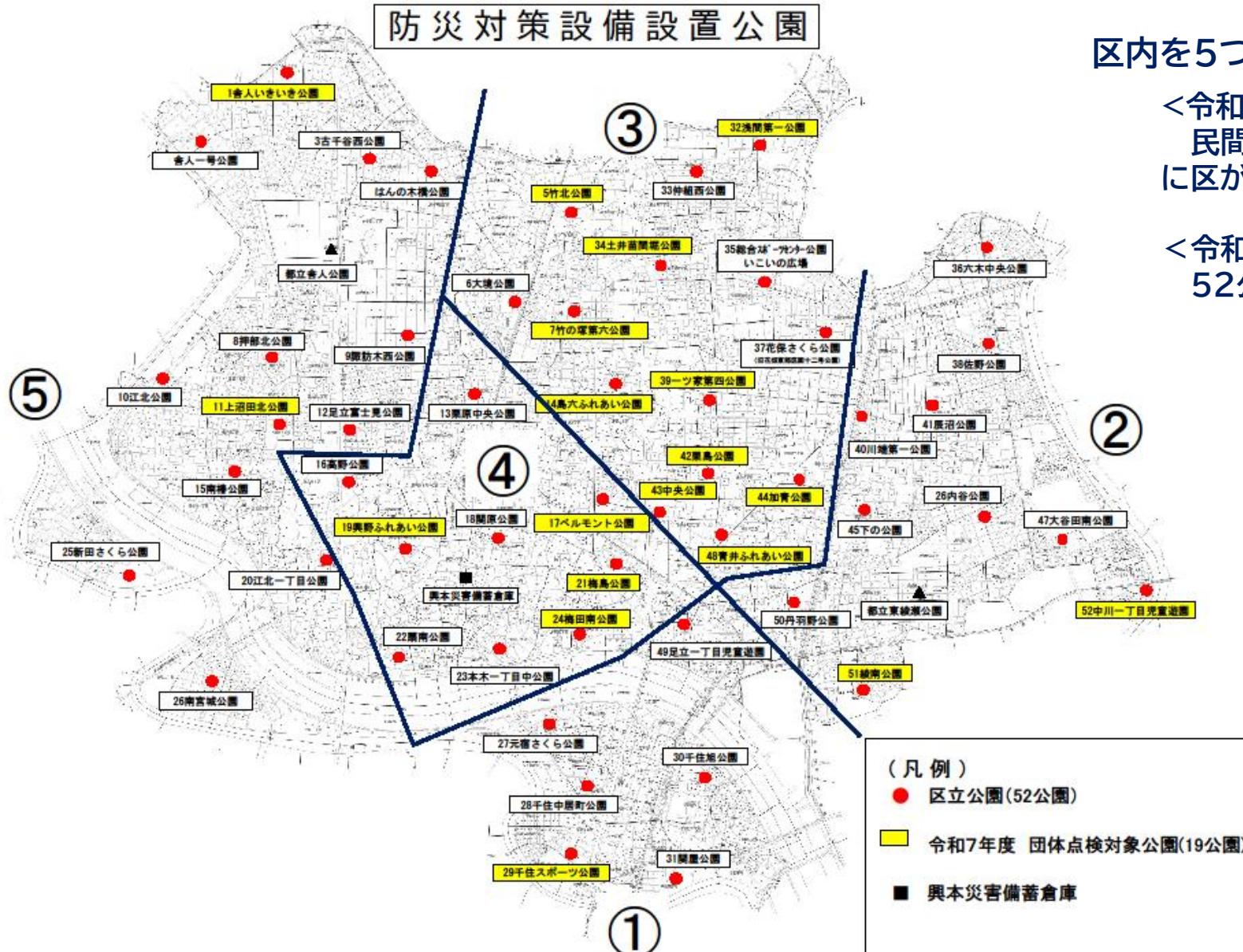
R8.3
まで

令和7年度中に区が未点検の33か所を点検

R8.4
以降

本格実施へ

民間協力団体が毎年度1回
区立公園52か所で点検・組立訓練を実施



区内を5つの地域(①~⑤)に分けて点検

<令和7年度>

民間協力団体による点検・組立訓練の前に区が事前点検を完了した19公園を実施

<令和8年度以降>

52公園全てを実施

2

第7号補正予算案②

【区独自】物価高騰支援策

1 給付金の支給

- ① 介護・障がい福祉事業所
- ② 私立幼稚園、保育施設等

2 第5回レシートde商品券事業

物価高騰支援を継続

1 下半期も継続！最短で令和8年1月中旬に支給開始(予定)

光熱水費、食材費、ガソリン代等の支援

① 介護・障がい福祉施設等 約1,500事業所へ補助

上半期予算額
185,291千円下半期予算額
212,732千円年間予算額
398,023千円

上半期と同じく、直近6か月の物価上昇率を踏まえ算出

② 私立幼稚園、保育施設等 約370施設へ補助

上半期予算額
6,957千円下半期予算額
93,787千円年間予算額
100,744千円

上半期の考え方

- 消費者物価指数
- 公定価格

を基に算出

下半期の考え方

▶ 都の制度内容に合わせた基準額

2 切れ目ない支援により、区内経済を活性化！

第5回レシートde商品券事業(令和8年4月27日～6月16日)

区内店舗のレシート900円以上(税込)のレシート9枚(2店舗以上)で、

区内共通商品券3,000円分をプレゼント！

	第4回(令和7年)	第5回(令和8年)
総事業費	570,000千円	482,692千円
キャンペーン期間	令和7年5月27日～7月16日	令和8年4月27日～6月16日
区内共通商品券 プレゼント	2,500円	500円UP 3,000円
申請件数	86,813件 (目標10万件)	【想定】9万件
登録店数	1,552店	1,500店以上
経済波及効果 [*]	13.6億円見込	14.5億円見込

3

第7号補正予算案③

中学校部活動運営の外部委託化

将来にわたる部活動の機会の確保

新たにモデル校を10校選定

これからの部活動の在り方を検討

- 種目経験のある部活動顧問の減少
- 教員の人事異動の際、同種目経験のある教員の補充ができないことがある
→ 学校部活動の維持が困難

足立区も
例外ではない

全国的な
課題

令和13年度までの目標

原則、休日における全ての“部活動の地域展開”を実現

- 生徒の約7割は部活動で技能を向上したい
- 生徒の約8割は部活動で楽しさを得たい
- 生徒の約7割、保護者の約8割が専門指導に前向き

区の調査
(R6)

- 部活が有意義なため、今の形のままがよい生徒が約6割
- 専門性を生かし携わりたい教員が約7割
- 一方で、教員の約7割に負担感がある

区の
方向性

- 希望生徒のための活動機会確保
→ 活動の機会と専門指導を担保するため
外部事業者による専門指導を導入

区立中学校35校への希望調査とともにモデル校を選定

令和8年夏頃、外部委託を開始

令和7年度ゼロ債務 令和8年度予算計上予定

78,298千円

参加校	10校	[1部活当たり想定経費]@2,610千円
部 活	運動部25部・文化部5部を想定 例:テニス、バスケ、バドミントン、吹奏楽等 約10種目	
委 託 内 容	POINT “平日・休日を問わず”部活動運営ができる事業者をプロポーザルで選定(令和8年5月予定)	
	■ 技術指導のほか、日程管理、生徒・保護者連絡大会手続きなど ■ 各部活1名の顧問を外部から配置予定	
効 果	指導の質の向上／教員が教科指導に専念	
検 証 (アンケート)	■ 生徒・保護者 事業者の部活動運営の満足度 → [目標]70% ■ 顧問教員 負担軽減部分の分析 → [目標]1週間あたりの部活動指導 平均6時間削減	

年 度	今後の目標
R10	20校 60部活
R11	35校 105部活

全校展開へ

4

第7号補正予算案④

小・中学校の校庭のさらなる安全を目指して

区立学校の校庭の地中金属物調査・作業委託

専門業者による校庭安全点検を実施

きっかけ 他自治体で、校庭に埋もれていた釘により児童が負傷

- 令和5年5月、全区立小・中学校で緊急一斉点検を実施
- 区でも、目視等により計23本の釘を発見

令和5年第4号補正 金属探知機購入＆探知・除去作業委託

校庭が“土”的学校(63校)を対象に
金属探知機を使用した安全点検を実施

- 各校に2機ずつ金属探知機を購入
- 金属探知と除去作業は、各校の「用務業務委託」に追加

計3,588本の金属物等を除去 (R5.8/22～9/20)

- ※ 59校で実施(4校は工事中であったため12月までに実施)
- ※ 概ね地中20センチメートル以内にあり、金属探知機に反応したが、深い場所で児童・生徒の活動に支障がないものは、そのまま残置

その後も 学校職員による日常の目視点検や、必要に応じ金属探知機による点検を行ってきた

しかし

令和7年6月に区内小学校で事故発生

- 校庭で児童が転倒した際、埋もれていた釘により負傷
- 令和5年に地中に残置した釘が、雨などの自然現象や校庭の使用状況により、地表に露出したことが原因と思われる

今 後

2年に1度を目安に専門業者による安全点検を委託

- **今年度から**安全点検の実施を委託
- 今年度の対象は校庭が“土”、“天然芝”(※1)の**59校**
- 金属探知機が反応した場合、周囲の砂を払い、目視でも地表の金属物等を確認できたら、**その場で除去**確認できない場合は、そのまま残置

	単価(税込)	校 数	補 正 額
小学校	935千円	26校	24,310千円
中学校	935千円	33校	(※2)30,860千円
合 計		59校	55,170千円

※1 梅島第一小学校は天然芝の校庭であるが、安全確保のため調査実施

※2 千円単位繰り上げ

5

竹の塚エリアに新たな交流拠点が誕生

足立区初のトレーラーハウス型交流拠点「たけパー」

「あやセンター ぐるぐる」に続く、区西部の新たな交流拠点【竹の塚】

きっかけ

“綾瀬の取組みを他エリアにも展開してほしい”との声

1

名称は「たけのつカーパーク」。略して「たけパー」

足立区初のトレーラーハウス型交流拠点を、竹ノ塚駅高架下にオープン。自由に遊んだり、食事をしたり、イベントに参加したりと、多様な「使いこなし」ができる空間

2

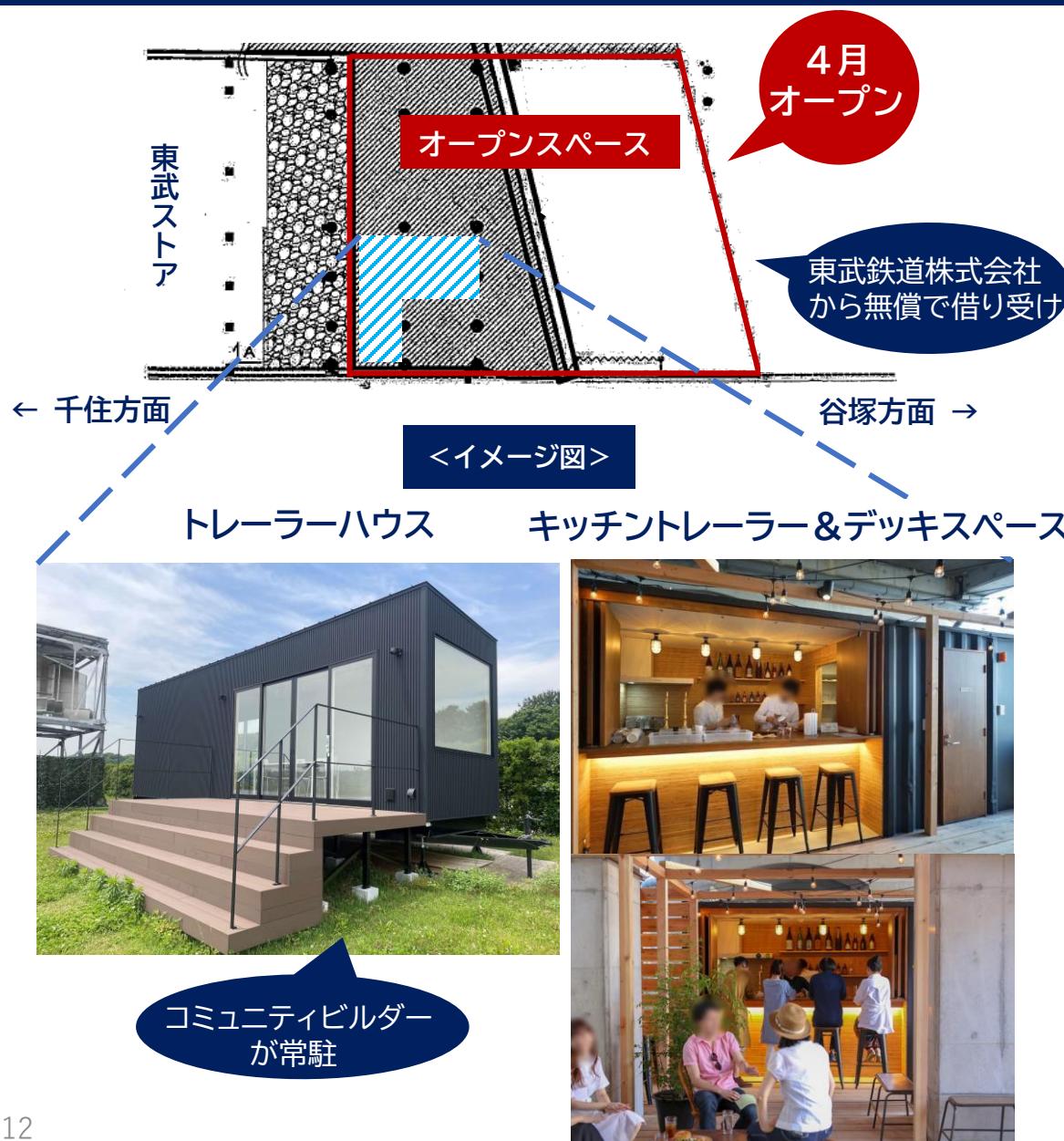
「たけパー」でやること・できること

- 1 「やってみたい」企画の伴走支援
- 2 地域とのコラボイベントやマルシェの開催
- 3 キッチントレーラーを活用したお試し出店など

3

3月中旬に「ぐるぐる博in竹の塚」でお披露目！

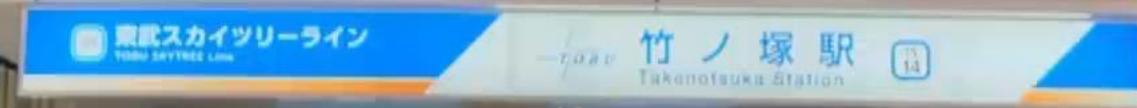
地域住民やお店を中心とした、自分の好き・得意を生かしたイベント「ぐるぐる博」をたけパーで初開催



竹ノ塚駅から「たけパー」への行き方



竹ノ塚駅東口から
北(谷塚方面)へ徒歩約3分



足立区のSDGsモデル事業第1弾「あやセンター ぐるぐる」



20年近くシャッターが
閉まっていた
綾瀬駅西口高架下

令和4年5月20日

「SDGs未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」にダブル選定

「貧困の連鎖解消」
がテーマ

※「SDGs未来都市」:全国の自治体からSDGsの達成に向けた優れた取組みを提案した都市を選定

※「自治体SDGsモデル事業」:「SDGs未来都市」のうち、特に先導的な事業を選定



区の根底課題である「貧困の連鎖」解消と「区に対するマイナスイメージ払拭」を進める



子どもたちのロールモデルになる意欲ある大人の活動場所を生み出すことで、子どもたちが社会と繋がり、逆境を乗り越える力を培い、安心して暮らせる持続可能なまちの実現を目指す

コンセプトは
「やってみたいを、
やってみる」

2年間で実現した
「やってみたいこと」
は200件以上！

令和5年10月29日 綾瀬にオープン



「あやセンター ぐるぐる」きっかけの直近イベント

イベント
1

11月23日(日・祝)「ぐるぐるKIOSK」
@綾瀬駅東口駅前交通広場



自分たちで会場の準備から運営を行う小規模マルシェ

10代～70代の6名が出店

同日、東京武道館では
デフリンピック女子
空手団体(形)も開催

湯澤 瑞選手
(区内在住)

イベント
2

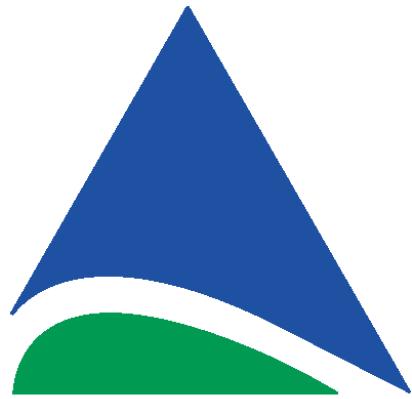
11月29日(土)「ぐるぐる博in来た！アヤセ」
@しょうぶ沼公園(北綾瀬)



4回目の開催(北綾瀬は初開催)

80以上の地域のすてきな人やお店が大集合

広い公園を舞台にした出店者と来場者の交流企画あり



ADACHI CITY